

日明

《学校教育目標》

確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた
自立心旺盛な児童の育成

〈めざす子ども像〉

- 自ら学び、判断し、行動する子ども
- 考える子ども
- たくましく、力いっぱいやりぬく子ども
- 仲間を大切に、思いやりのある子ども

平成26年10月 31日
北九州市立日明小学校
文責 校長 佐藤 眞司

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について平成26年4月22日(火)に6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問調査」を実施しました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせ致します。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取り組みの参考にさせていただきたいと思っております。なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。本校では、他の教科等を含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・書く力を問う問題では、全国平均をやや上回っていました。 ・情景描写を正しく理解し適切なものを選択する問題では、全国平均よりもかなり正答率が高かったです。 ・話合いの観点に基づいて情報を関係づける問題や物語の登場人物の相互関係を捉える問題については、正答率が低かったです。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・言語についての知識・理解・技能の能力は、全国平均を上回っていました。 ・二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える問題は、正答率が高かったです。 ・詩の解釈における着眼点の違いを捉える問題や、二つの詩を読み比べて読み、表現の工夫を捉える問題については、正答率が低かったです。
算数A	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・数量関係を問う問題では、全国平均をやや下回っていました。 ・二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付ける問題や、四則の混合した式の意味について考える問題は、正答率が高かったです。 ・小数第1位までの減法の計算をする問題は正答率が低かったです。
算数B	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・応用問題に対して、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むことができるようになってきています。 ・数量や図形についての技能が高くなり応用できるようになってきています。 ・示された情報を基に、条件に合う時間を求める問題や全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する問題は、正答率が高かったです。 ・数量の関係を相対的に捉え、その関係を表している図を選択する問題や、示された情報を整理し筋道を立てて考え小数倍の長さの求め方を記述する問題の正答率が低かったです。

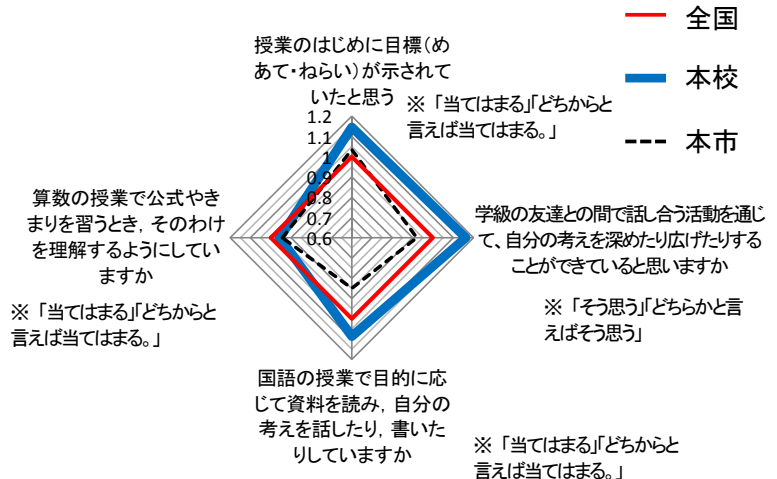
② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う」と答えた児童は、全国平均よりかなり高かったです。これは、全職員が授業の中で目的意識をもって授業改善を実践した成果であるといえます。

・「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と答えた児童の割合が高いです。これは普段の授業の中で、お互いの考えを出し合い質の高い授業が行われていることの結果であると考えられます。

・本校の児童は、算数の学習に興味をもち、日常で使ってみたいという意識が全国平均よりも高かったのですが、「公式やきまりのわけを理解するようにしている。」と答えた児童の割合は、あまり多くありませんでした。公式やきまりのわけをしっかりと理解させるために、その公式が導かれた過程を児童が自分の言葉で説明できるようになれば、更に力が伸びると考えられます。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)



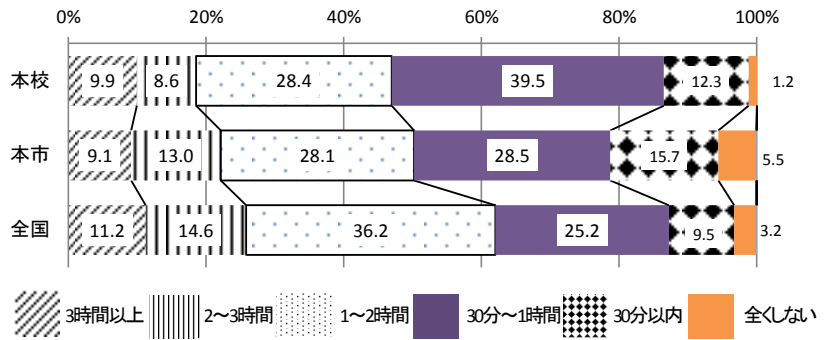
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

・本校の児童は学校の宿題は、きちんとしています。また、6年生の家庭学習時間の目標60分以上している児童は、50パーセント近くにまで達してきています。更にめやすを示し、計画的に学習が進められるように指導していく必要があります。

・家で、自分で計画を立てて勉強している児童は、全国平均よりわずかに少ないですが、昨年度よりも増えてきています。これは、家庭学習の大切さを呼びかけてきた成果であると思われます。今後さらに、家庭学習の具体的な取り組み方を指導するとともに、家庭の協力が得られるように、更に学校から呼びかけていきたいと考えています。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・毎日同じくらいの時刻に寝ている児童が多く、家庭での規則正しい生活習慣が身に付いてきていると言えます。

・「どんなことでも失敗を恐れなくて挑戦する」という児童が全国平均より割合が高いです。これは、家庭や学校でさまざまな体験を積み重ねながら、成就感を味わい認められているからと考えられます。また、各担任が日々の子どもの様子を学級通信や保護者との面談によって伝えることにより、ほめられる機会が多くなっているからだと考えられます。

・将来の夢や希望を持っている児童の割合が高く、昨年度よりもさらに増えてきています。その夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせていく必要があります。

・テレビやビデオ・DVDの視聴時間が長く学習時間が短い傾向があります。家庭での時間の使い方を見直させ学習時間を増やす必要があります。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

① 教科に関する取組

◎学力向上のための特設時間の実施

- ・朝自習で日明国語タイムと日明算数タイムを水曜と金曜の朝15分間設定し、全校一斉に学習しています。
- ・小中連携サポーターの先生が6年生算数科の授業の学習補助を行い、習熟の程度に応じた個別指導をしたり、さらに学力をつけるためのプリントや教材を整備したりしています。

◎過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・基礎学力の定着を図るための問題やワークを活用し、学年で取り組んでいます。

◎書くことの習慣化

- ・学習のめあて、まとめを確実にすばやく書けるようにしています。
- ・学習の終わりに「振り返りタイム」として、今日の学習で分かった事や感想等を書く活動を積極的に取入れています。
- ・学年に応じて、体験したことや自分の思いや考えを書く活動を積極的に取入れています。

◎習熟度別の少人数編成による授業をより効果が上がるように実践しています。

○学習規律や学習指導方法を共通理解し、指導を徹底させるために「日明小スタンダード(共通実践)」を作成し、授業改善に努めます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎宿題のスタンダード化

- ・家庭学習時間の設定をしています。(低学年・・・20分、中学年・・・40分、高学年・・・60分程度)
- ・学年に応じて自主学習ノートの活用をしています。(書き方使い方の具体例をお知らせします。)
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して家庭の理解と協力を得ながら意欲の持続を図っています。

◎全国学力・学習状況調査の課題と取組を保護者へお知らせします。

- ・学校だよりや学年だより等でお知らせしますので、家庭学習の具体的な取り組み方等についてご協力をお願いします。

○保護者の皆様に「ケータイ夜10時電源OFF運動」や「家庭での時間の使い方」について、PTAと連携して繰り返し呼び掛けますので、家庭生活習慣の見直しにご協力ください。